

# 自治基本条例メモ



第19話

お問い合わせ  
政策調整課(米原庁舎)  
☎52-6626 ㊟52-5195

① どうしたの？  
何かあったの？

え、私は知らなかったわ！

ぼくは知ってたよ。

たしか広報まいばらに書いてあったと思うけど

② 昨日の子どもイベントのこと知らない子が結構いたんだ。楽しかったのに…

広報まいばらに書いてあったわよねえ。

私たちは最近広報を見るようになったから知っていたけど、お友だちは知らなかったみたい。

③ どうすれば、みんなに伝わったと思う？

広報でのお知らせは、少し前だったしね。その後は伊吹山テレビの文字放送で見たわ。

あんまり詳しいことが書いてなかったからかな。

ぼくのところはお母さんが広報を見て電話で聞いてくれたんだ。

④ もう少し後に詳しい内容をお知らせすればよかったんじゃない？

タイミングって大切ね。市は情報をどうやって、どの段階でみんなに伝えていくのかしら。こーやって私たちが「知ろう」とすることでも必要かもー！

そうだね。じゃあ次回はもう少し詳しくみんな考えてみよう。



政策調整課の職員が、まちづくり団体を訪問。熱意をもって活動されているみなさんの「心意気」をレポートします。

## 岩脇まちづくり委員会

- 会員 約40人
  - 連絡先 代表 藤本傳一 ☎52-1830
- \*会員が避難壕を案内します。(要事前予約)



岩脇まちづくり委員会は、平成12年に自治会役員が中心となって活動をスタート。徐々に有志のメンバーも増え、公民館前の花壇造りや岩脇山の遊歩道の整備、地域の課題への対応など、活動の幅も年々広がったそうです。

そして、平成20年には岩脇山の蒸気機関車避難壕の復元と環境整備に取り組みされました。遺跡の保存というよりも、以前からゴミが放置されていた環境を改善し、住みやすい岩脇にしようという思いがきっかけだったとか。ひどい悪臭の中でのゴミの山の撤去作業でしたが、誰も途中でやめようと言うことなく、とことんやりきってしまおうと一致団結して作業が進んだそうです。みなさんの苦勞の甲斐あって、この避難壕は戦争の悲惨さや平和の大切さを学べる教育教材として注目され、市外や県外からも多くの見学者が訪れています。

「これからも岩脇山と避難壕の周辺をきれいにして、みんなの憩いとふれあいの場にしていきたい」と語る委員長の藤本さん。子どもや高齢者も気軽に登れるように整備された遊歩道や、一息つけるように避難壕の前に置かれた手づくりの椅子に委員会のみなさんの温かみを感じました。

「蒸気機関車避難壕」とは…太平洋戦争時、空襲から蒸気機関車を守るために岩脇山に掘られた防空壕

掲載希望はこちらまで  
お問い合わせ 政策調整課(米原庁舎)  
☎52-6626 ㊟52-5195